

## 令和2年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

自らの個性・能力を磨き、激動する社会の変化に対応できる活力あふれる人材を育成する学校

- 1 主体的に学ぶ姿勢、学ぶ喜びや探究心を育み、自己実現の達成を図る学校
- 2 人権意識、国際感覚を身につけ、豊かな人間性を育てる学校
- 3 教育活動の充実した地域から信頼される学校

## 2 中期的目標

1 主体的に学ぶ姿勢、学ぶ喜びや探究心を育み、自己実現の達成を図る学校

(1) 主体的に学ぶ姿勢、学ぶ喜びや探究心を育む

ア 「教科の魅力伝える・生徒の意欲を引き出す・これまでの成果を活かす」授業改善の実践

イ 生徒・保護者・地域の期待に応える教育課程の編成と実施

※ 学校教育自己診断「論理的に文章をまとめる力を身につけることができる」の肯定的評価を令和4年度には80%以上にする (R1:69%)

※ 学校教育自己診断「授業には意見を述べたり深く考える機会がある」の肯定的評価を令和4年度には85%以上にする (R1:78%)

※ 学校教育自己診断「学習時間を確保するよう努力している」を令和4年には80%以上にする (H29:52% H30:60% R1:72%)

(2) 自己実現の達成を図る

ア 「総合的な探究の時間」の充実

イ 生徒の多様な進路選択に応える

ウ 自学自習する姿勢を育み、主体的な学習者を育てる

※ 国公立大学、有名私立大学(関関同立)の現役進学率を令和4年度に35%以上にする (H29:36% H30:29% R1:23%)

※ 「総合的な探究の時間」への満足度を令和4年には85%以上にする (H29:71% H30:74% R1:81%)

(3) 英語4技能を育成し、「使える英語」を獲得する

ア 英語4技能の習得に力を置いた授業の展開

イ 語学研修等「英語力」を高める取組みの実施

※ 国公立大学、有名私立大学(関関同立)の現役進学率を令和4年度に35%以上にする (H29:36% H30:29% R1:23%)

※ 語学研修の継続実施、参加者の肯定的評価90%以上を維持する

2 豊かな人間性の育成

(1) 人権感覚を育成し、他者理解のできる真のリーダーとしての資質を育む

(2) 国際交流を推進し、国際感覚を備えた人材の育成を図る

(3) 集団の中での役割を意識し正しく行動できる姿勢を育てる

※ 学校教育自己診断の「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の肯定的評価を令和4年度に90%にする (H29:79% H30:82% R1:88%)

※ 学校教育自己診断の「人権について学ぶ機会がある」の令和4年度に肯定的評価90%を維持する (H29:81% H30:84% R1:90%)

※ 部活動加入率90%の維持(H29:92% H30:91% R1:90%) 学校行事への満足度90%以上を維持する (H29:91% H30:93% R1:95%)

※ 国際交流への満足度90%以上を維持できるようにする

3 地域から信頼される学校づくり

(1) 地域連携、社会貢献活動によりコミュニティーの一員としての意識を高める

(2) 広報活動を充実させ、学校の教育活動を発信する

(3) 業務の精選と学校組織(教員体制、運営方法等)の再構築

(4) 危機管理体制の充実をめざす

※ 地域連携活動、社会貢献活動を充実させ、参加者数(約800名)を維持する (H29:約600名 H30:約680名 R1:約800名)

※ すべての生徒、教職員が確実に安否確認、連絡が取れる体制を訓練により毎年確認し、実行可能なものとする。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

| 学校教育自己診断の結果と分析 [令和2年12月実施分]   | 学校運営協議会からの意見  |
|---|---|
| <p>1) 「教員に率直に保護者の意見が伝えられている」81%：前年比+9%、「メールマガジン、プリントなどで情報発信ができています」89%：前年比+10%、「家庭や学校での生活習慣ができています」83%：前年比+9%等は評価が高くなった。頻繁な連絡により、保護者の学校への信頼や安心感が得られたと考える。</p> <p>2) 「地域と連携した特色ある取組みがある」(生徒：-20%、保護者：-25%) 「国際理解を深める取組みがある」(生徒：-15%、保護者：-13%)については大きく評価が低下した。コロナ禍にあり、実施が困難であったことが影響している。「学校行事や授業参観への参加」(保護者：-19%)と、コロナ禍の影響がうかがえる。</p> <p>3) 少人数展開授業について、発言回数(-20%)、学習への理解(-7%)、学習意欲(-7%)と評価が低下していることは課題。カリキュラムマネジメントの必要などところである。</p> | <p>第1回(6月15日 紙面開催)</p> <p>1) 引き続き授業力向上のための取組みの継続をお願いします。相互の授業見学だけでなく、メンター制を利用した授業の振り返り、府教育庁の指導主事や研究者などを招聘した研究協議会などにも取り組んでいただきたい。</p> <p>2) SDGsの取組みはどのようにして「自分事」として捉えさせるか、学校としての仕掛けが必要。国際理解教育、地域連携は現在実施しにくい状況にあるが、身近なところ、あらたなリソースに光を当ててみれば価値ある切り口が見えてくるのではないかと。</p> <p>3) 安心・安全な教育環境維持のためにはたくさんの情報が入ってくるような体制を整えることが重要です。</p> <p>4) 働き方改革の視点で、教員の健康福祉の確保を図ること、子どもと向き合う時間を確保することが大切です。</p> <p>第2回(11月30日 紙面開催)</p> <p>5) コロナ禍の中、しっかりと足を地につけた教育活動が行われていると思われる。</p> <p>6) 義務教育ではタブレットを活用した授業が始まっている。北千里高校においてもGIGAスクール構想の下、早くそのような授業が展開されることを期待する。</p> |

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

| 中期的目標                | 今年度の重点目標  | 具体的な取組計画・内容   | 評価指標  | 自己評価  |
|----------------------|---|---|---|---|
| 1<br>主体的に学ぶ姿勢、探究心の育成 | <p>(1) 主体的に学ぶ姿勢、学ぶ喜び探究心を育む</p> <p>ア「教科の魅力を伝える・生徒の意欲を引き出す・これまでの成果を活かす」授業改善の実践</p> <p>イ 探究学習の充実を図り、学びを深める</p> <p>(2) 自己実現の達成を図る</p> <p>ア「総合的な学習の時間」「総合的な探究の時間」の充実</p> <p>イ 生徒の多様な進路選択に応える</p> <p>ウ 自学自習する姿勢を育み、主体的な学習者を育てる</p> <p>(3) 英語4技能の充実「英語力」を高める取組みの実施</p> | <p>(1)</p> <p>ア 授業改善に取り組む</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アクティブ・ラーニングを意識した授業を充実させ、主体的に学ぶ力の向上をめざす</li> <li>・授業や考査において論理的に考え文章化する力の育成に取り組む</li> <li>・相互授業見学週間、授業充実のための教員研修を実施し、教員間相互の授業の充実を図る</li> </ul> <p>イ SDGs を意識した探究学習の取組みを進め、生徒の課題意識を深める。</p> <p>(2)</p> <p>ア 総合委員会を中心に「総合的な探究の時間」の充実を図り、北千里型探究学習のスタイルを作る。</p> <p>イ 大学見学の実施、外部人材を活用した研修を実施し、キャリア教育を充実させる</p> <p>ウ・年間を通して「学習強化週間」「土曜学習会」を実施し、生徒の主体的な学習を支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スクールノートを活用し、主体的な時間管理能力を育て、計画性、実行力を育成する。</li> </ul> <p>(3)</p> <p>英語暗唱大会、スピーチコンテスト、スピーキングテストを実施し、伝える力、話す力、聞く力を育成する。</p> | <p>(1)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育自己診断「授業では意見を述べたり深く考える機会がある」肯定的評価 75%維持</li> <li>・学校教育自己診断「論理的に考え文章をまとめる力が身についた」肯定的評価 70%以上</li> <li>・授業見学週間の実施（2回）、教員授業研修の実施（1回）</li> </ul> <p>イ 学校教育自己診断「総合の取り組みは進路を考える参考になった」R1:80%の維持</p> <p>(2)</p> <p>ア 探究学習の実施（全学年）</p> <p>イ 大学見学（1年次：1回）進路講演会（各学年1回）（R1実績の維持）</p> <p>ウ・学習強化週間、土曜自習室の実施（年間5回）（R1実績の維持）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育自己診断「学習時間を確保するよう努力している」（R1:71%⇒実績維持）</li> </ul> <p>(3)</p> <p>スピーチコンテスト、スピーキングテストの実施</p> | <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育自己診断「授業では意見を述べたり深く考える機会がある」の肯定的評価は78%、「論理的に考え文章をまとめる力が身についた」肯定的評価は72%であった。授業見学週間はコロナ禍のため1回のみの実施であったが、公開授業研究を2回、学校支援クラウドサービスの活用や動画作成についてなどのスキルや知識について研修を1回実施することができた。（○）</li> <li>イ総合的な探究の時間については76%の肯定的評価となりコロナ禍の実施と考えると成果があった。（○）</li> <li>アイについては予定通り実施できた。（○）</li> <li>ウ学習強化週間における土曜自習室は1学期中間考査（緊急事態宣言のため不実施）以外については実施できた。（○）</li> </ul> <p>・家庭学習時間については69%の生徒が確保に努力しており、昨年度と同程度であった。（○）</p> <p>「話す力」を培うスピーチコンテストは2年生で実施。映像を活用した表現豊かなものであった。（○）</p> |
| 2<br>豊かな人間性の育成       | <p>(1) 人権感覚を育成し、他者理解のできる真のリーダーとしての資質を育む</p> <p>(2) 国際交流を推進し、国際感覚を備えた人材の育成を図る</p> <p>(3) 集団の中での役割を意識し正しく行動できる姿勢を育てる</p>  | <p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学年ごとのテーマ別研修を実施し、生徒の人権意識を高める</li> <li>・研修を通して、生徒のSNS活用力を育てる</li> </ul> <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海外語学研修、台湾姉妹校交流を継続し、国際感覚、語学学習への意欲を高める</li> <li>・校内留学プログラムの実施により学びのモチベーションを高める</li> </ul> <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動の加入を推進し、互いに切磋琢磨しながら人間性を育てる</li> <li>・遅刻防止週間を実施し、時間を大切にすることを意識づけを行う</li> </ul>   | <p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学年ごとの生徒対象研修実施（1回）、学校教育自己診断肯定的評価85%以上（R1:89%）</li> <li>・生徒対象SNS研修の実施（1回）</li> </ul> <p>(2) 国際交流の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海外語学研修、姉妹校交流の継続実施</li> <li>・新たな語学研修の実施</li> </ul> <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動加入率（R1:90%）の維持</li> <li>・年間遅刻数2400件以下の維持（R1:2372件）</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・人権研修、SNS研修はそれぞれ実施することができた。生徒からの肯定的評価は93%であった。（○）</li> </ul> <p>国際交流はコロナ禍のため中止となった。オンライン留学、国内留学プログラム等、新たなプランを提示したが、実施には及ばなかった。（一）</p> <p>部活動加入率は昨年度を維持（91%）、年間遅刻回数は2130件、（前年2372件）となり、目標達成できた。（○）</p>  |
| 3<br>地域から信頼される学校づくり  | <p>(1) 地域連携の推進、社会貢献活動により、コミュニティーの一員として自覚を高める</p> <p>(2) 広報活動を充実させ、本校の教育活動を発信する</p> <p>(3) 業務の精選、学校組織の再構築</p> <p>(4) 危機管理体制の充実</p>   | <p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・竹あかり、クリーン作戦、地域の秋祭り等の地域連携活動を推進する</li> </ul> <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Webページの更新、メールマガジンの発行の充実を図り、学校情報を積極的に発信する</li> </ul> <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ノークラブデーの確実な実施により、生徒・教員共に時間活用を進める</li> <li>・学校組織（分掌・委員会等）の見直しを行い、業務の偏りを軽減する</li> </ul> <p>(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・登下校の自転車登校の混雑緩和策を講じ、周囲の方の安全や生徒が安全に登下校できるようにする。</li> <li>・災害発生時にスムーズに安否確認等連絡体制が取れるよう、連絡システムの周知を行う。</li> </ul>  | <p>(1) 地域行事への参加</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・取り組みの継続実施</li> <li>参加者数の600名の維持（R1:約800名）</li> </ul> <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育自己診断情報発信についての保護者満足度の維持（R1:74%）</li> <li>・メールマガジンの定期発行（週1回）</li> </ul> <p>(3) 学校教育自己診断</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「週1回のノークラブデーの確保されている」100%</li> <li>・R2年（1～12月）の月80時間以上時間外勤務ののべ人数の減少（R1:29人⇒25人）</li> </ul> <p>(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・苦情件数0件</li> <li>・安否確認訓練の実施（1回）</li> </ul>                     | <p>コロナ禍のため、予定していた地域行事がすべて中止となった。密になることも避けなければならない、対応に苦慮した。クリーン作戦は地域貢献として実施している本校独自事業のため、人数を限り、2回実施できた。（参加者約100名）（一）</p> <p>情報発信について、保護者の満足度は89%となった。コロナ禍にあり、メールマガジンも頻繁に発行し、情報発信に積極的に努めた。（○）</p> <p>ノークラブデーについての評価は89%。なぜそのような回答になるのか検証が必要である。（△）</p> <p>80時間以上の時間外勤務者はのべ69人と大幅に増加した。コロナ禍による業務増加が大きく影響したと考えられる。（一）</p> <p>コロナ禍にあって、登下校時のマナーについては逆に近隣住民からの苦情は増加し、残念ながら苦情は0にはならなかった。（一）</p> <p>訓練は実施できた。（○）</p>  |